

男女間における暴力に関する調査報告書の概要

http://www.gender.go.jp/e-vaw/chousa/h24_boryoku_cyousa.html

I 調査の概要

内閣府では、男女間における暴力に関する実態を把握するため、3年毎に調査を実施している。今回の調査では、平成23年11月～12月にかけて、全国20歳以上の男女5,000人を対象に無作為抽出によるアンケート調査を実施した。3,293人（女性1,751人、男性1,542人）から回答があった。

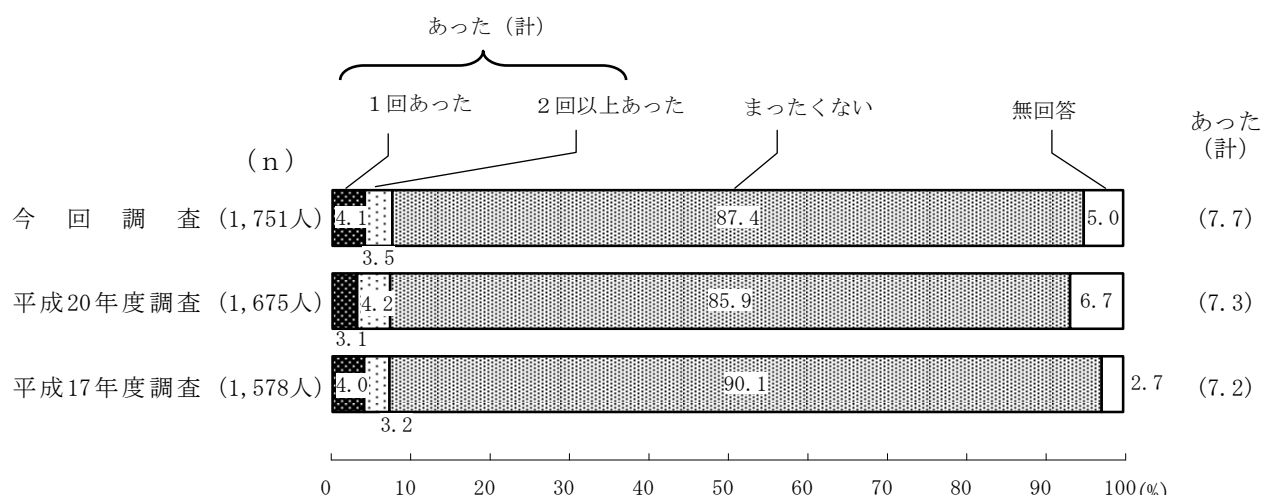
今回の調査と前回（平成20年度）の調査を比較してみると、配偶者からの暴力を受けたことが「何度もあった」と回答した人が、前回の調査では女性10.8%、男性2.9%、今回の調査では女性10.6%、男性3.3%となっており、被害状況に大きな変化は見られず、依然として被害が深刻な実態にあることが確認された。

II 結果の概要（異性から無理やりに性交された経験（女性のみ）関係）

(1) 被害経験の有無

女性（1,751人）に、これまでに異性から無理やりに性交されたことがあるかを聞いたところ、「1回あった」が4.1%、「2回以上あった」が3.5%で、被害経験のある人は7.7%となっている。（図1-1）

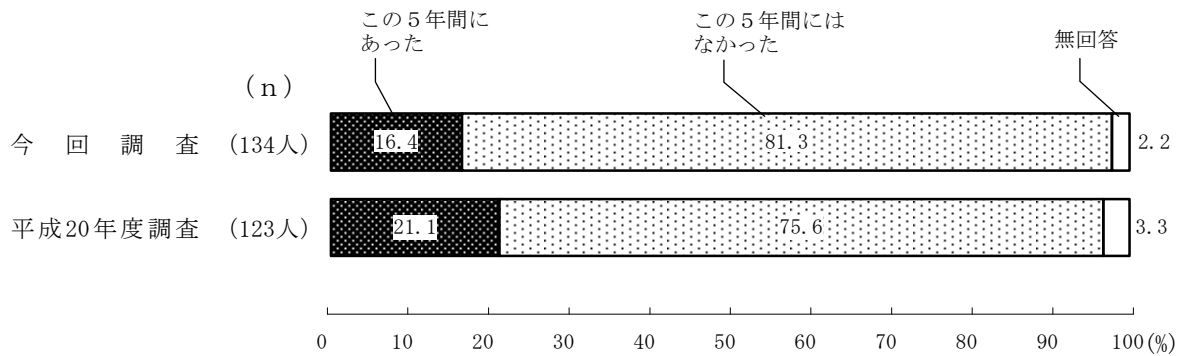
図1-1 異性から無理やりに性交された経験の有無 — 時系列比較



(2) 過去 5 年以内の被害経験

異性から無理やりに性交されたことがあった人（134 人）に、さらに過去 5 年以内の経験を聞いたところ、「この 5 年間にあった」が 16.4%で、「この 5 年間にはなかった」が 81.3%となっている。（図 2-1）

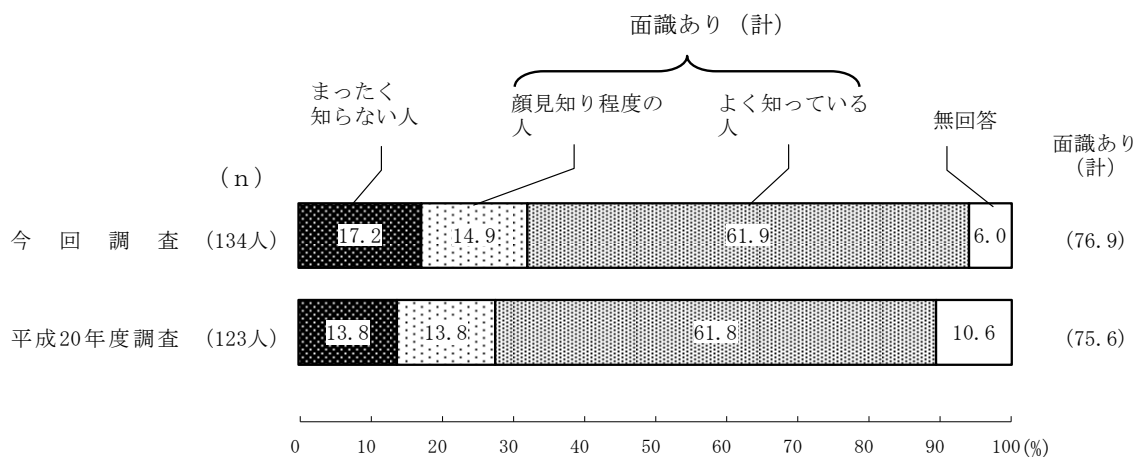
図 2-1 過去5年以内の異性から無理やりに性交された被害経験 — 時系列比較



(3) 加害者との関係

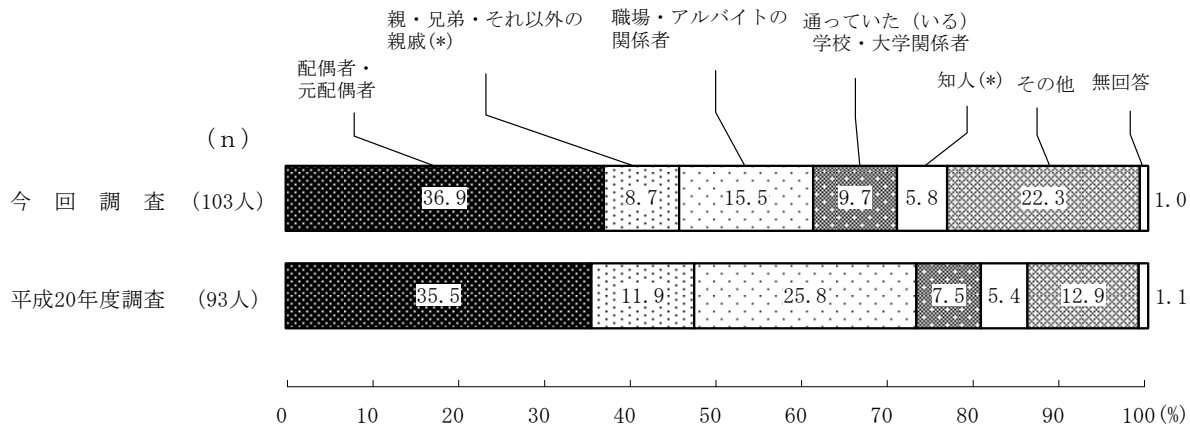
異性から無理やりに性交されたことがあった人（134 人）に、加害者との面識の有無を聞いたところ、「よく知っている人」が 61.9%、「顔見知り程度の人」が 14.9%で、『面識があった』が合わせて 76.9%となっている。（図 3-1）

図 3-1 加害者との面識の有無 — 時系列比較



加害者と面識があった人（103人）に、加害者との関係を聞いたところ、「配偶者・元配偶者」が36.9%で最も多く、次いで「職場・アルバイトの関係者」が15.5%となっている。（図3-2）

図3-2 加害者との関係 — 時系列比較

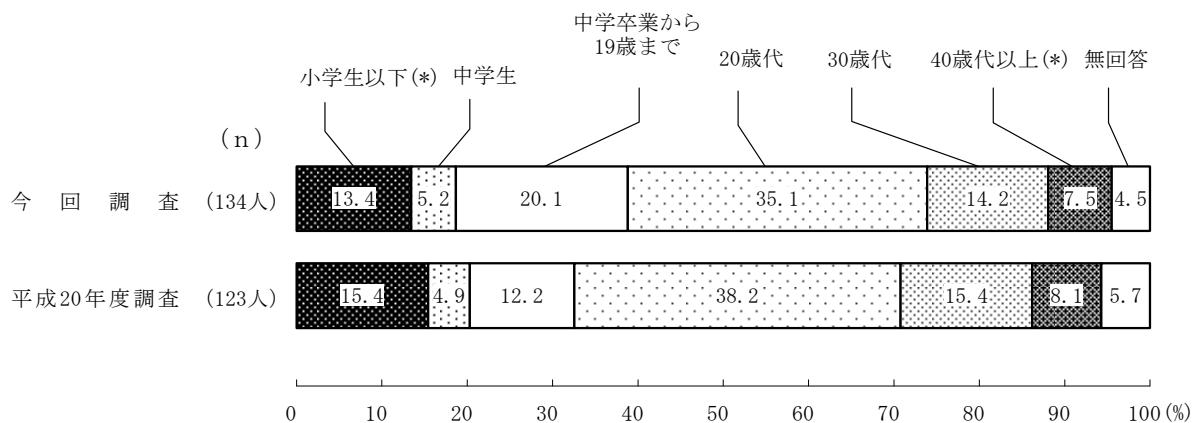


* 上記の図では、下記のように一部の選択肢を合算して表記している。
 親・兄弟・それ以外の親戚：「親（養親・継親も含む）」「兄弟（義理の兄弟も含む）」
 「上記以外の親戚」の合算
 知人：「地域活動や習い事の関係者（指導者、先輩、仲間など）」「生活していた（いる）施設の関係者（職員、先輩、仲間など）」の合算
 また、下記の選択肢は、表記を省略している。
 配偶者・元配偶者：配偶者（事実婚や別居中を含む）・元配偶者（事実婚を解消した者を含む）
 職場・アルバイトの関係者：職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手など）
 通っていた（いる）学校・大学関係者：通っていた（いる）学校・大学関係者（教職員、先輩、同級生、クラブ活動の指導者など）

(4) 被害にあった時期

異性から無理やりに性交されたことがあった人（134人）に、その被害にあった時期を聞いたところ、「20歳代」が35.1%で最も多く、次いで「中学卒業から19歳まで」が20.1%、「30歳代」が14.2%などとなっている。（図4-1）

図4-1 異性から無理やりに性交された被害にあった時期 — 時系列比較



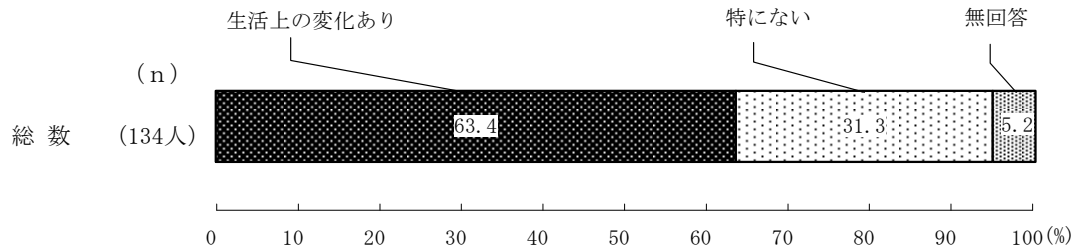
上記の図では、下記のように一部の選択肢を合算して表記している。
 小学生以下：「小学校入学前」「小学生のとき」の合算
 40歳代以上：「40歳代」「50歳代以上」の合算

(5) 生活上の変化

異性から無理やりに性交されたことがあった人（134人）に、その被害による生活上の変化を聞き、何らかの変化があったと回答した人を「生活上の変化あり」としてまとめた。

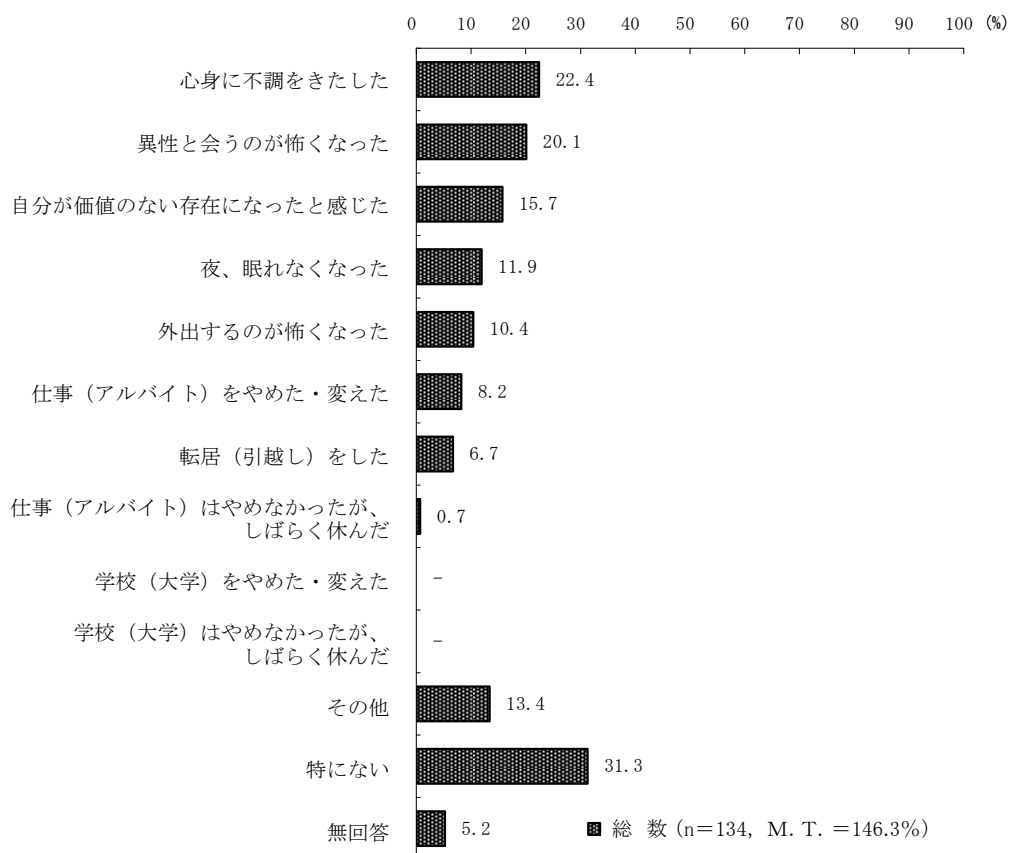
『生活上の変化があった』は 63.4% となっている。（図 5-1）

図 5-1 異性から無理やりに性交された被害による生活上の変化の有無



生活上の変化の内容をみると、「心身に不調をきたした」が 22.4%、次いで「異性との会うのが怖くなった」が 20.1%、「自分が価値のない存在になったと感じた」が 15.7% などとなっている。（図 5-2）

図 5-2 異性から無理やりに性交された被害による生活上の変化（複数回答）

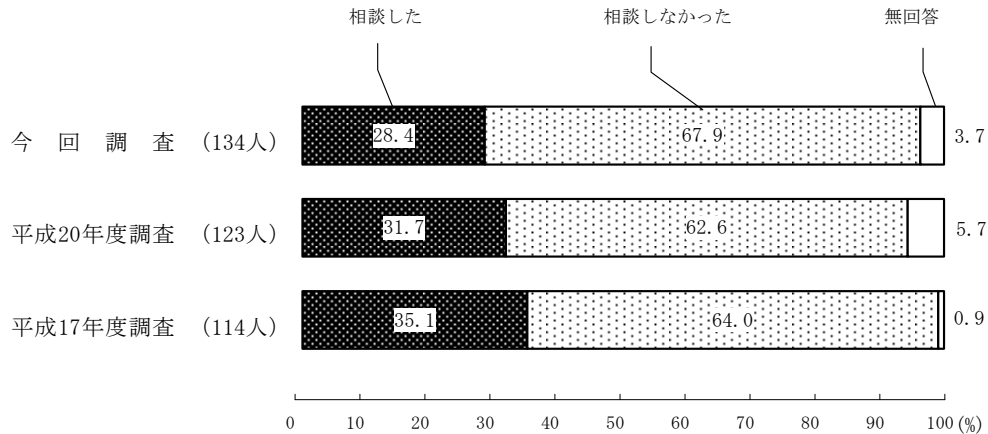


(6) 被害の相談先

異性から無理やりに性交されたことがあった人（134人）に、その被害について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を「相談した」とまとめた。

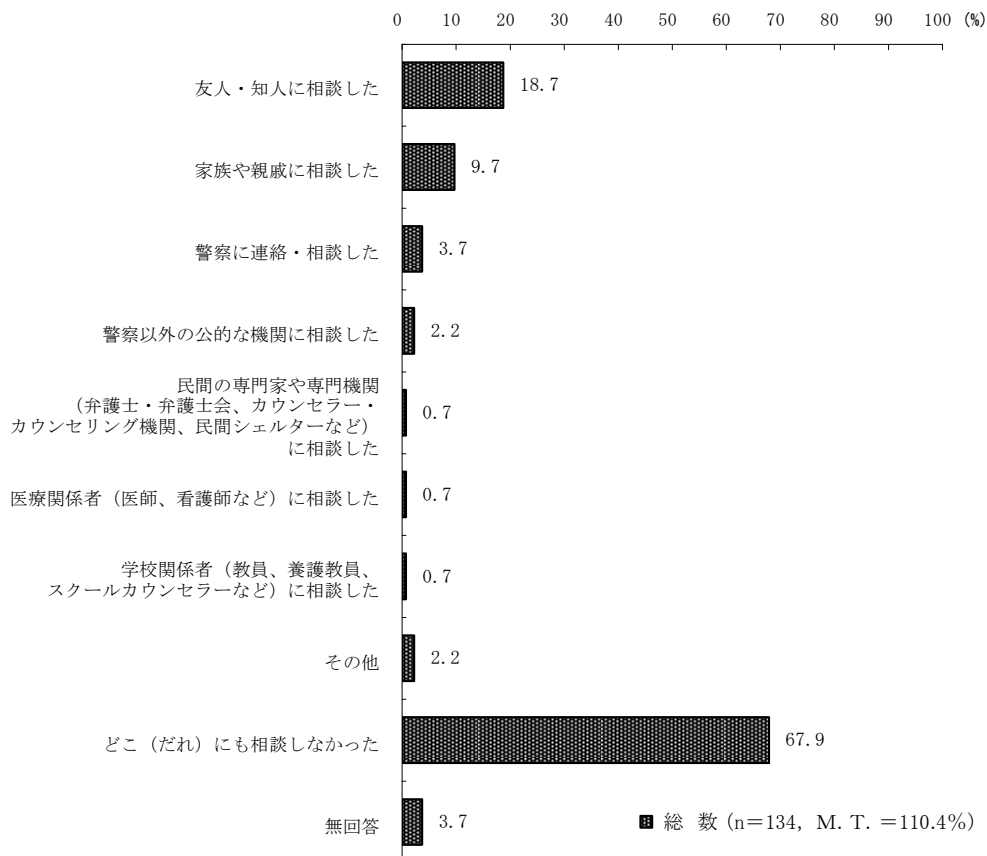
「相談した」が28.4%で、「相談しなかった」が67.9%となっている。（図6-1）

図6-1 異性から無理やりに性交された被害の相談の有無 — 時系列比較



相談先をみると、「友人・知人に相談した」が18.7%で最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」が9.7%となっている。（図6-2）

図6-2 異性から無理やりに性交された被害の相談先（複数回答）



異性から無理やりに性交された被害を相談した人（38人）に、相談してよかったかを聞いたところ、「相談してよかった」が30人となっている。（表 6-1）

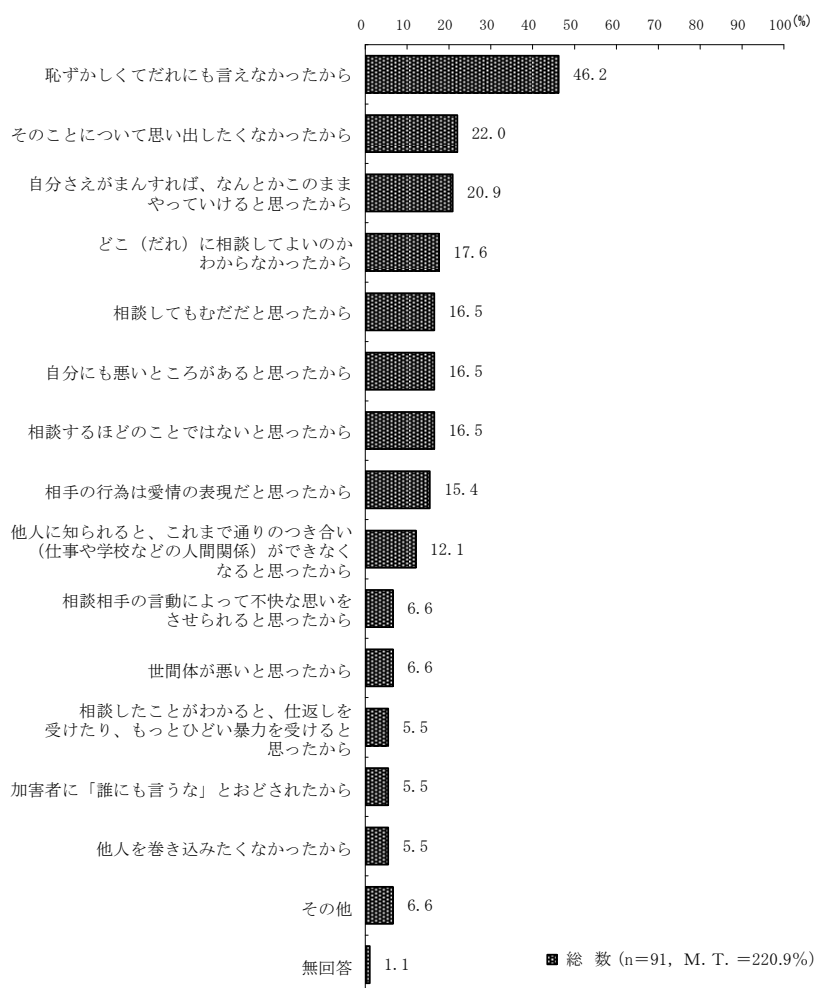
表 6-1 異性から無理やりに性交された被害にあったことを相談してよかったか

	(人)
	【総 数】
n	38
相談してよかった	30
相談しなければよかった	6
無回答	2

(7) 相談しなかった理由

異性から無理やりに性交された被害について、どこ（だれ）にも相談しなかった人（91人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が46.2%で最も多く、次いで「そのことについて思い出したくなかったから」が22.0%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が20.9%となっている。（図 7-1）

図 7-1 異性から無理やりに性交された被害を相談しなかった理由（複数回答）



(8) 最初に相談した相手

異性から無理やりに性交された被害を相談した人（38人）に、最初の相談した相手を聞いたところ、「友人・知人に相談した」が21人、「家族や親戚に相談した」が7人となっている。（表8-1）

表8-1 異性から無理やりに性交された被害の最初の相談先

(人)

	【総数】
n	38
友人・知人に相談した	21
家族や親戚に相談した	7
医療関係者（医師、看護師など）に相談した	1
警察に連絡・相談した	－
警察以外の公的な機関に相談した	－
民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した	－
学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した	－
その他	2
無回答	7

最初に相談した相手の反応を聞いたところ、「自分の気持ちや状況を受けとめてくれた」が19人、「話を聞いて、なぐさめてくれた」が17人などとなっている。（表8-2）

表8-2 異性から無理やりに性交された被害を最初に相談した相手の対応（複数回答）

(人)

	【総数】
n	38
自分の気持ちや状況を受けとめてくれた	19
話を聞いて、なぐさめてくれた	17
早く忘れるよう助言された	8
警察に届けるよう、すすめられた	6
相手が動揺した	6
病院を受診するよう、すすめられた	3
その他の公的機関に相談するよう、すすめられた	3
被害にあったことを責められた	3
カウンセラーに相談するよう、すすめられた	1
その他	6
無回答	3
回答計	75